

海のいのち

立松 和平

めあて

与吉じいさの人物像について考えよう。

与吉じいさの絵
(75 ページ挿絵)
のコピー

- ・ 一本づりの漁師
- ・ 父がもぐっていた瀬で漁を行っている
- ・ 千びきに一ぴきでいい
- ・ 二十ぴきとれば漁を終える
- ・ もう、魚を海に自然に遊ばせてやりたくなっとる

生きるために最低限の魚をとる漁師
海で生きていく方法を知る漁師

「千びきに一ぴきでいいんだ。千びきいるうち一ぴきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」

- ・ 海で生きていくには、海を守ることも大切だ
- ・ 先祖から受けついでこの海を次の世代につなげたい
- ・ 自分が生きていくために必要な分だけ海のいのちをとるのだ

尊敬…漁師としての心構えや技術
感謝…海での生き方を学ばせてもらったこと

おとう うみのめぐみだからなあ

与吉じいさ 千びきに一ぴきでいいんだ

海に生きている。
海によって生かされている。

4 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート…④

活動のねらい

「承」の部分を読み、与吉じいさの人物像や生き方について読み取ることができるようにする。

1 本時の見通しをもつ。

- めあてを知り、与吉じいさの人物像や生き方について読み取ることを確認する。

2 本文七十三ページ十四行目から七十六ページまで（「承」の部分）を通読し、与吉じいさの人物像や生き方を読み取る。

- ① 与吉じいさの人物像や生き方が分かる根拠となる部分に線を引きながら読む。
- ② 線を引いた部分から与吉じいさの人物像や生き方について想像し、ワークシートに記入する。

【発問】与吉じいさはどんな漁師ですか。

- 本文の記述から考えられる人物像について発表させる。

- ③ 「千びきに一ぴき……ずっとこの海で生きていけるよ。」の言葉の意味について考える。

【発問】「千びきに一ぴき……ずっとこの海で生きていけるよ。」の言葉には与吉じいさのどのような思いが込められているのでしょうか。

- 「この海」、七十六ページ四、五行目の「ここはおまえの海だ」にある与吉じいさの

「海」のとらえ方について考えさせるようにする。

- ④ 太一の与吉じいさに対する思いを考える。

【発問】太一は与吉じいさの事をどう思っているでしょう。

- 七十六ページ九行目の会話文を中心に与吉じいさに対する太一の思いを考えさせる。

3 「おとう」と「与吉じいさ」の漁師としての考え方の共通点を考える。

- ・ 共通点 「海のめぐみ」「千びきに一ぴき」といった海で生きていくための考え方の相違点として、おとうや与吉じいさの漁の仕方や亡くなる時の様子を考えさせることも考えられる。太一の成長との大きなかわりが見えてくる。

評価 与吉じいさの人物像や生き方を、叙述から読み取ることができる。

4 学習を振り返り、自己評価をする。